

荘内版：学びスタイルの実現に向けて

本校の協同学習推進を継続しながら、学習用端末を活用するこれからの学びスタイルを実現する。

主体的・対話的で深い学びの実現

学びスタイルのイメージ

協同学習

協同的な学び+個別最適化学習

学習用端末活用

岡山県の授業V+授業のUDを基盤

キャリア教育

多様な体験活動等の取組で学びに向かう力を育成

開発的な生徒指導(PBIS)推進

GIGAスクールで授業から広がる学び実現
(授業や授業外、家庭で活用、次世代型学びの姿を構築)

深い学びを支える授業基盤

全体を見通した単元計画

評価基準を設定し、授業と家庭学習の連動、学習用端末活用等を総合的に単元指導をデザイン

生徒が主役となる授業デザイン

- ①授業のめあて(目標)を提示
学習課題を自分事として捉えさせる。
 - ②思考し表現する時間を確保
自己決定し、考えを広げ深めさせる。
アクティブラーニングの徹底
 - ③目標達成状況を確認
学習の過程を振り返らせる。
 - ④学習内容のまとめ
学習内容を整理、確認させる。
 - ⑤授業の振り返り
学習成果を自己評価させる。
- ★各場面で効果的に学習用端末活用

自立的学習者育成のための課題提示

- ①授業とつながる課題提示(短期/長期)
- ②チャレンジノート活用(自主学習)

①導入

②展開

③④⑤終末

連動

学びを広げる
課題提示

※授業を支える特別支援教育の視点(授業のユニバーサルデザイン)

- ①授業の見通しを持たせる工夫 ②板書の構造化 ③生徒と生徒を繋ぐ支援 ④適切な個別支援

徹底! 協同学習

※グループ学習≠協同学習 授業での学習≠教える・教わる

協同とは=「集団の仲間全員が高まることをメンバー全員の目標とする」ことを基礎に置いた実践のすべて(つまり協同学習は、授業だけでなく学校教育の様々な場面で実践すべきもの)

授業実践でまずやること!

- ①生徒が我が事として学習内容を捉える工夫をすること
学ぶ値打ち、学習内容自体の魅力、そのようにして学んでいくのかの見通しを示していく。
- ②生徒主体の学習活動をデザインすること
その単元がなぜ必要なのか、効果的に学ぶためにはどうすればいいかを理解させ、生徒が主体的に活動できる準備をして、主たる学習活動はできるだけ生徒に任せていく。
教師の手助けなしに主体的にグループ活動等ができるような十分な指示(協議の目的や進め方、ゴールの形)を与えて任せる。
(荘内中のグループ学習形態の基本: ペア学習、4人口の字グループ学習、その他学習内容に応じ編成)

協同学習で何よりも大切な集団づくり

- ①課題解決志向集団を育成(課題をよりよく達成することを目指して結ばれた集団)
人間関係志向集団(仲よし関係で結ばれた集団)では成果は出せない。徹底した集団づくりを推進
- ②「集団の仲間全員が自分の味方」という環境で安心して学べる集団風土づくり
成果の出ない生徒に応援や支援をする集団、できない仲間が基準をクリアすると集団全員が喜ぶという環境づくりに取り組む。
集団における個人の責任(仲間を助けるための援助をする責任、仲間の援助に誠実に応える責任)を意識するよう指導する。

集団づくりを支える開発的な生徒指導(PBIS)の推進

望ましい集団づくりに貢献する行動を賞賛、望ましい集団行動への賞賛等

学校でのすべての取組は連動し総合的に成果を上げる。

教職員総掛かりですべての教育活動で質の高い次世代型学びスタイルを実現!